

# BDFの事例学ぶ

【鉦路市】鉦路市と道経済

2008-2-23 (日)

産業局、NEDOは21日、鉦路キャッスルホテルで新エネルギーセミナーを開いた。原油高騰により経済面での優位性も注目されているBDFがテーマで、行政のほか、石油廃棄物処理、

運送などの関係者100人が参加。滋賀県や旭川市の先進事例と鉦路での取り組み状況を学んだ。

NPO法人「菜の花プロジェクトネットワーク」の山田副代表は、滋賀県で展開されているBDFの取り組みを紹介。滋賀県では、1977年に大発生した琵琶湖の赤潮を契機に、合成洗剤からせっけんの切り替えとせっけんの原料となる廃食油の回収が進んだ。

その後、合成洗剤の改良でせっけんの需要が低下すると、新たな廃食油の用途としてBDFが浮上。しかし、燃料として使用するには、生産量が少なすぎた。

そこで、ドイツが実践していた菜種の栽培を導入。油を絞って食用油に使い、廃油を回収してBDFを精製。これをごみ収集車やバス、農業機械、県が教育用に所有している船の燃料として使用するサイクルが確立した。

休耕田などを菜の花畑にしたことで、新たな観光資源

菜の花プロジェクトを説明する山田副代表



源や環境学習の機会が生まれ、地産地消の推進とともに地域活性化にもつながっている。菜の花プロジェクトは、今やさまざまな形で全国への広がりを見せている。

山田副代表は「誰でも参加できる具体的な仕組みづくりがプロジェクトの大き

なテーマ。

よい地域をつくることで、儲かる地域になることを目指している」と述べた。

続いて旭川市の松

田英志リサイクル推進課主任が、89年から始まった旭川市の廃食油回収事業について、鉦路コールマインの松本裕之事業グループ部長が、2007年後半から具体的に動きだした鉦路市内でのBDF実証試験について、それぞれ解説した。